

2023年度 日本工学院八王子専門学校											
CG映像科											
表現研究 2											
対象	3年次	開講期	後期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	栗原・榊原・安達			実務 経験	有	職種	画家、予備校講師				
授業概要											
進路指導の一環として、自己表現や作品アピールの方法について学び、トレーニングを行います。デモリールによる作品アピールの技法などを研究し、より効果的なポートフォリオの制作に臨みます。(表現研究2は制作特論2の続きの授業となります。)											
到達目標											
この科目では、実際のモチーフを主に鉛筆を使用し、二次元画面に立体的に表現出来るようになることを目標とする。具体的には、さまざまな形態や質感を持つ工業製品や自然物、およびモデルや自分自身などの人体をよく観察して描くことで、解剖学的・構造的に理解し、モデリングやアニメーションをはじめとしたCG制作に役立てることである。また、構図、光、質感表現など作品の絵作り、見せ方の基本も学ぶ。											
授業方法											
実習形式でモチーフやモデルを鉛筆でデッサンすることを中心に行う。制作を通じて描写や観察のトレーニングを繰り返し、形態の客観的な把握(形を合わせる)、透視図法を基にした空間・立体表現、より緻密に観察した質感表現、を体得する。3年次後期は、彩色模写、細密ペン画、有色下地デッサンなどさまざまな描画素材を用いて完成度の高い作品を作る。希望者には粘土を用いた塑像を制作し、立体的な把握を強化する選択課題も用意する。											
成績評価方法											
課題評価：70%完成した作品の完成度・課題への到達度について評価する。 平常点：30%出席率、制作姿勢 ※出席率75%以下は不合格											
履修上の注意											
ここでは、実際に描いて経験しデッサンを自分の感覚の中に取り込むことを重視する。したがって、描き、モチーフと比較検証し、直し、より対象に近づくという姿勢が大切であり、制作途中段階での比較検証を怠ったり、完成を焦って直すべき構図や形態をそのままに放置するという態度はとるべきではない。うまく出来ないことを恐れずに積極的に描いてみるのが上達に繋がる。											
教科書教材											
適適宜資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	細密ペン画 枯葉や植物の実、貝殻など自然物を可能な限り緻密に表現する1/2										
第2回	細密ペン画 枯葉や植物の実、貝殻など自然物を可能な限り緻密に表現する2/2										
第3回	静物デッサン 壁面に掛けられたモチーフを今までとは違った視点で表現する1/2										

第4回	静物デッサン 壁面に掛けられたモチーフを今までとは違った視点で表現する2/2
第5回	写真模写(着彩) 密に表現する1/4 自分の写真(全身像)をアクリルガッシュを使い、面相筆を用いて細
第6回	写真模写(着彩) 密に表現する2/4 自分の写真(全身像)をアクリルガッシュを使い、面相筆を用いて細
第7回	写真模写(着彩) 密に表現する3/4 自分の写真(全身像)をアクリルガッシュを使い、面相筆を用いて細
第8回	写真模写(着彩) 密に表現する4/4 自分の写真(全身像)をアクリルガッシュを使い、面相筆を用いて細
第9回	有色下地デッサン 画面を作る1/2 有色下地にコンテやパステルを用いてモチーフを描き、まとまりのあ
第10回	有色下地デッサン 画面を作る2/2 有色下地にコンテやパステルを用いてモチーフを描き、まとまりのあ
第11回	塑像① 各自持参したスニーカーなどをモチーフにして、水粘土でリアルな立体を作る 1/3
第12回	塑像① 各自持参したスニーカーなどをモチーフにして、水粘土でリアルな立体を作る 2/3
第13回	塑像① 各自持参したスニーカーなどをモチーフにして、水粘土でリアルな立体を作る 3/3
第14回	塑像② 与えられた素材(布、木片など)をモチーフにして立体的に構成し、水粘土でリアルな立体を作る1/2
第15回	塑像② 与えられた素材(布、木片など)をモチーフにして立体的に構成し、水粘土でリアルな立体を作る1/2